



**長岡市で
日本共産党と
後援会の
総決起集会**

日本共産党と後援会は5日、長岡市で全県総決起集会を開き、参院選勝利への決意を固めました。党議員団も4人がそろって参加、平良木議員は「介護でたいへんだが、時間をやりくりしてがんばりたい」と決意の発言を行いました。

たけだ勝利新潟選挙区予定候補が決意表明した。挨拶に立ったたけだ勝利政策委員長は、「政治の中味を変える絶好のチャンスがやってきた。アメリカいいなり、財界にもものがない政治を変えていく」と元気いっぱい訴えました。

上越では女性後援会

上越市では6日、日本共産党女性後援会の総



会が開かれ、市民に向け元気にアピールしました。議員団からは、樋口議員と平良木議員が市議会議員団を代表して参加しました。

総会では、先月のアメリカでのNPT再検討会議で訪米したくわはら加代子さんから、日本共産党がこの会議で大きな役割を果たしたことなどが報告されました。

また、終了後には街頭で賑やかに宣伝を繰り広げました。

**経営委員会の経営計画なしで
なぜ今 三セク会社設立？**

経営主体への出資予算で平良木議員が総括質疑

市議会6月定例会は、9日市長による提案説明を皮切りに始まり、初日は、並行在来線対策で、経営主体となる会社立ち上げのための出資金約千五百万円の補正予算に対し、平良木議員が総括質疑を行いました。

平良木議員は、並行在来線開業準備協議会での計画や手順とは異なっており、同協議会の経営委員会による経営計画が出ていない段階で設立する提案であることと指摘しながら、どのような経緯で設立が早まったのかをただしました。

また、今後この経営主体は具体的にどんなことをしようとしているのかを明らかにするよう求めました。

国やJRが責任を果たし、公共交通を安定的に継続させることが求められている状況の中、この並行在来線はどうするか、注目されています。

詳細は次号以降で報告いたします。

並行在来線対策では、市民の足をしっかりと守っていく立場で、一昨年秋に「上越地域3市議会並行在来線対策協議会」が設立されました。構成メンバーは、各市議会の正副議長と特別委員会の正副委員長で、平良木議員が新幹線並行在来線対策特別委員会の副委員長として名を連ねています。

この協議会はその目的として「並行在来線を継続させるとともに、運営に当たっては、政府与党申し合わせを見直し、沿線自治体や地域住民に過度の負担を強いることのないよう国・県・JRに働きかけていくこと」としています。

**日本共産党議員団
3市議会並行在来線対策協議会の
開催を瀧澤議長に申し入れ**



県開業準備協議会の経営委員会では、今後の公的負担額がさらに膨らむ見通しであるとしています。

今回の経営主体設立提案に対しても、市民の足を守る立場で、糸魚川市議会、妙高市議会とも連携することに臨むことが大切です。

日本共産党議員団は、7日、この主旨で協議会の開催を瀧澤議長に申し入れました。

**会則の主旨に基づいて
対策協議会の開催を**

糸魚川市では提案そのものが微妙？

第3セクター会社は、県のほか、上越、妙高、糸魚川の3市が足並みをそろえていくことが前提。一方、糸魚川市では出資の補正予算そのものの提案ができるかどうかという微妙な状況であるとのこと。

これは、「どこの3セク会社も経営は四苦八苦であり、地元の足を奪うことになっている。地元負担軽減のためには、JRが経営を継続すべきで、最低でも経営参加すべきだ。そうした経営形態を含めて経営委員

会で方向を出すべきなのに、先行して県と三市だけで設立するのはおかしい」という声が多いことが背景と

います。こうした市民の声にしっかり耳を傾ける対応は、ここでも必要です。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.237 2010年6月13日 (政務調査費対象外)

- 連絡先 橋爪 法一 548-3628 (吉川区代石)
- 樋口 良子 544-6802 (中門前3)
- 上野 公悦 530-2203 (頸城区中柳町)
- 平良木 哲也 525-9096 (上中田)